

自立活動学習指導案

東広島市立龍王小学校

教諭 廣藤 香織

1 日時 令和元年6月14日(金) 第4校時 11:25～12:10

2 学年 第1学年 1名

3 場所 ことばときこえの教室

4 題材名 「正しい発音を身に付けよう」

5 題材設定の理由

○児童観

本児は、就学前から病院で構音指導を受けていた。就学してからは、通級による指導のみとなっている。子音[h][r]の省略が一部で見られたり、サ行音がタ行音に置換、それに伴いザ行音がダ行音、シャ行音がチャ行音に置換したりしている。また、濁音の無声音化も見られる。子音の省略については、療育を受ける中で単音を正しく発音できるようになっているが、単語レベルになると前後の音に影響され誤った発音になってしまう。しかし、実際は、会話の流れから言おうとしている内容を、ある程度、相手に推測してもらっている。さらに、明瞭ではないが、表記を見れば意識して発音することができる。誤った発音をしていても単語の文字表記は、正しく書けるものもあれば、「あひる」を「あいる」と書くなど誤ってしまうものもある。自分の発音の何ができていないのか、できていないのかに気付いておらず、発音の正誤を弁別する力が十分ではないことが考えられる。そのため、正しい発音ができているものも、誤った発音になってしまうこともあり、安定していない。

会話では、語彙が少なく、受け答えの言葉が的確でない様子が見られる。これまでに本児が自身のことについて「言葉ができない。」とつぶやくことがあった。これは、今までに発音が不明瞭なために何度も聞き返されたり、通じていないと感じることが多かったりした経験が積み重なっているためであると推測される。それでも、人との会話を楽しむ様子であったり、伝わらないときに、諦めずに身振りを加えながら伝えようとしたりする姿が見られる。

○題材観

本題材は、特別支援学校教育要領・学習指導要領自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）「6 コミュニケーション（2）言語の受容と表出に関すること」について指導するものである。単語の正しい表記を覚えさせながら音の弁別をさせたり、自分の発音に意識を向けられるようにさせたりすることで、正しい発音を定着させていくことにつながると考える。

○指導観

指導に当たっては、構音位置で舌を安定させるため、舌の脱力を維持させたり、上下左右に動かしたりする運動を設定する。また、息の出し方の手掛かりにするため、「さしすせそ体操」を取り入れ、

動作化したり、視覚的に示したりして、楽しく発音練習に取り組むことができるようにする。

サ行音の構音指導については、本児の氏名に「す」があるためス音から始める。まず、本児に自覚がないサ行音の誤りに関連し、「ス」と「ツ」の発音を聞き、しっかりと弁別できるようにしておく。ス音から始め、サ・セ・ソ音へと展開させていく。シ音については、他のサ行音の構音とは少し異なるため、サ行音の最後に指導する。子音の省略や濁音については、文字表記が正しい発音の手掛かりとなるため、絵と文字を提示し、読んだり書いたりさせる活動を取り入れる。2～3音の単語から始め、文章、会話へと指導を進めていく。

音の弁別力を高めさせていくために、単語については、各教科に関わるもの・身近な生活で常用するものなどを取り入れることで、各教科等の学習に対する意欲や自己肯定感を保たせる。

学習の定着を図るために、最後には、本児が好きなしりとりゲームを設定する。これは語彙を広げるためだけではなく、誤った発音や表記について確認させ、次回以降の指導で扱うようにする。

学習活動の中で、めあてを明確にさせるために、できたこと・できるようになったことを確認できる振り返りシートを用意する。そして、各項目にシールを貼らせ達成感を味わわせ、楽しみながら取り組ませたい。

指導後には、学級担任や保護者との連携を大切にし、正しく発音できるようになったことを認めて褒めてもらうことで自信につなげていく。

6 指導の目標

○正しい発音を身に付けさせる。

7 指導計画

月	5	6	7	8	9	10
【音の弁別】	舌の運動 ス → セ → サ → ソ → シ →					
【発音】						
サ行音	ス → セ → サ → ソ → シ →					
ザ行音	ザズゼゾ →					
子音						
[h] [r]	2～3語 → 文章 → 会話 →					

※前期終了時に計画の見直しを行う。シャ行音については、後期に行う。

8 本時の目標

○伸ばした [s] に「う」を合わせて言うことができる。

9 準備物

鏡，ストロー，ワークシート，タブレット端末，確認シート，シール

10 本時の展開

学習活動	指導上の留意事項
「ス」の発音練習をしよう。 1 舌の運動をする。 2 「さしすせそ体操」をする。 3 単語の書き取り「これ なあんだ」をする。(10問) ・絵に合う言葉を書く。 4 「ス」音の正誤を聞き分ける。 ・文字表記と同じ発音を選ぶ。 ・意味のある言葉を聞き，その言葉は何かを選ぶ。(例：「スキ」→「スキ」or「ツキ」) 5 「ス」の発音の仕方を練習する。 ・スプーン舌にする。 ・舌の上にストローをのせ，上の歯で軽く支える。 ・そのまま息を出し続ける。 ・ストローを抜いても同じように息を出し続ける(3秒)。 ・後続母音の「ウ」をつける。 6 しりとりゲームをする。	・上下左右などの方向を示し，十分に舌を動かさせる。 ・息の出し方のヒントにするために動作化しているため，ここで発音が正しくなくても指摘せず，楽しく取り組ませる。 ・前回までの指導や担任からの情報を生かし言葉を選ぶ。 ・仮名の習得が十分ではないため，文字表記には絵を添える。 ・正しい発音を聞かせた後に，正誤の聞き分けを行わせる。 ・言葉の聞き分けは，「ことたぶ」(ことばの教室タブレット用 WEB アプリ，岩手県立総合教育センター)を活用する。 ・スプーンを用いて舌の形が平らになっていることを確認させる。 ・息が真ん中から出ていることを確認する。 ・息の出し方が変わらないよう，ゆっくりとストローを抜く。 ・[s]音が安定してできるようになってから「ウ」をつける。 ・振り返りシートのできた項目にシールを貼らせることで，達成感や自信をもたせる。 ・誤った発音や表記に関しては，ここでは軽くふれる程度にし，次回の指導で扱うことにする。

